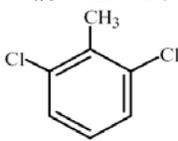


物質名	2,6-ジクロロトルエン			DB - 20										
別名	-			構造式 										
CAS番号	118-69-4													
PRTR番号	-													
化審法番号	3-78													
分子式	C ₇ H ₆ Cl ₂	分子量	161.03											
沸点	198 (760 mmHg) ¹⁾	融点	25.8 ¹⁾											
蒸気圧	3.58 × 10 ⁻¹ mmHg (25、推定値) ²⁾	換算係数	1 ppm = 6.59 mg/m ³ (25)											
分配係数 (log P _{ow})	3.99 (実測値) ³⁾	水溶性	1.85 × 10 mg/L (25、推定値) ⁴⁾											
急性毒性														
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>動物種</th> <th>経路</th> <th colspan="3">致死量、中毒量等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>					動物種	経路	致死量、中毒量等			-	-	-	-	
動物種	経路	致死量、中毒量等												
-	-	-	-											
中、長期毒性														
<p>・雄ラットに0、30、100、300、1,000 mg/kg/day を交尾前2週から交配期間終了後2週まで強制経口投与した結果、300 mg/kg/day 以上の群で活動性の低下がみられ、体重増加の抑制、腎臓相対重量の増加に有意差を認め、1,000 mg/kg/day 群では肝臓相対重量の有意な増加を認めた。また、100 mg/kg/day 以上の群の腎臓で好酸性小体の増加、300 mg/kg/day 以上の群の肝臓で小葉中心部の肝細胞肥大、曇り硝子様変性、血清中のグルコース濃度の低下を認めた⁵⁾。この結果から、NOAEL を 30 mg/kg/day とする。</p>														
生殖・発生毒性														
<p>・ラットに0、30、100、300、1,000 mg/kg/day を交尾前2週から雄には交配期間終了後2週まで、雌には哺育3日まで強制経口投与した結果、300 mg/kg/day 以上の群の雌で胸腺の萎縮、胸腺相対重量の減少、尿細管で空胞変性、脂肪変性、肝臓の小葉中心部で肝細胞肥大がみられ、1,000 mg/kg/day 群の雌では活動性の低下がみられ、体重増加の抑制、腎臓及び肝臓相対重量の増加に有意差を認めた。親ラットで交尾や受胎能への影響はみられなかったが、300、1,000 mg/kg/day 群の母ラット各1匹で仔集め不良等の哺育異常、1,000 mg/kg/day 群の母ラット1匹で哺育1日までに全産仔死亡がみられた。出生仔では、300 mg/kg/day 以上の群で哺育4日の生存率の低下、1,000 mg/kg/day 群で哺育4日の体重の低下傾向がみられた。なお、外表系、内臓系の奇形はみられなかった⁵⁾。この結果から、母ラット及び仔のNOAEL を 100 mg/kg/day とする。</p>														
ヒトへの影響														
情報は得られなかった。														
発がん性														
IARC の発がん性評価：評価されていない。														
許容濃度														
<table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ACGIH</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日本産業衛生学会</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>					ACGIH	-	日本産業衛生学会	-						
ACGIH	-													
日本産業衛生学会	-													
暫定無毒性量等の設定														

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた NOAEL 30 mg/kg/day (腎臓での好酸性小体の増加) を採用し、試験期間が短いことから 10 で除した 3 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入ばく露について、暫定無毒性量等は設定できなかった。

引用文献

- 1) Lide, D.R. (ed.) (1994-1995): CRC Handbook of Chemistry and Physics. 75th ed. CRC Press Inc., Boca Raton, FL.
- 2) Neely, W.B. and G.E. Blau (1985): Environmental Exposure from Chemicals, Vol. 1. CRC Press, Boca Raton, FL.
- 3) SRC, Syracuse Research Corporation (2007): SRC PhysProp Database, (<http://esc.syrres.com/interkow/physdemo.htm>)
- 4) Meylan, W.M., P.H. Howard and R.S. Boethling (1996): Improved method for estimating water solubility from octanol/water partition coefficient. Environ. Toxicol. Chem. 15: 100-106.
- 5) 化学物質点検推進連絡協議会(2002): 2,6-ジクロロトルエンのラットを用いる反復経口毒性・生殖発生毒性併合試験. 化学物質毒性試験報告. 9: 265-280.